

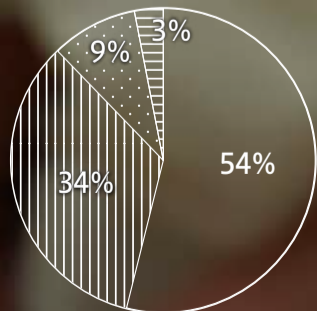
- 2-9 特集 人と生きる
- 9 街の話題/コラム
- 10 カーボンニュートラルの取り組み
- 11-12 お知らせ

特集

人と生きる



アンケート 感染症や軍事侵攻の報道などをきっかけに命のことを考えましたか？



2月10～24日実施
97人から回答

とても考えた 少し考えた 考えなかった 未回答

切なくなるほど小さくか弱い、生まれたての命。頼りなく見えても握り返す指は温かく、心臓はとくとく脈打ち、生命の力強さを秘めています。

赤ちゃんは大切に守られ、愛情を与えられてやっと、自分で歩けるようになります。目を覆いたくなるような戦禍や、いまだはびこる感染症などの暗いニュースで報道される悲劇の後ろにも、その命の数だけ、感動や祝福、物語があります。

特集では、市民の皆さんの「命」にまつわる体験談を取り上げ、命や人を大切にすることを考えました。《2～9面に関連記事》

特集 人と生きる いのちの現場で

生と死の傍らで働く人たちの目には、始まりから終わりまでまぶしく輝く命の姿が映っていました。



5歳の幸羅ちゃんとは1歳の時に出会った

訪問看護師
田中和子さん
(53・元町)

「幸羅ちゃん。おやつの間だよ。優しい笑顔で少女に声をかけるのは、訪問看護師の田中さん。「赤ちゃんの頃は呼吸器が外せなかった。今は口からご飯を食べる練習中なんだよね」と、幸羅ちゃんの成長を喜びます。

訪問看護師
田中和子さん
(53・元町)

「幸羅ちゃん。おやつの間だよ。優しい笑顔で少女に声をかけるのは、訪問看護師の田中さん。「赤ちゃんの頃は呼吸器が外せなかった。今は口からご飯を食べる練習中なんだよね」と、幸羅ちゃんの成長を喜びます。

患者さんから学ぶ日々

4年ほど前、肝臓がん末期の男性患者と妻から「毎年2回行っている、恒例の旅行に行きたい」と相談されました。心配しながらも、医師や周りのスタッフと念入りに打ち合わせを重ね、1回目は無事に帰って来

か考えていた時、知り合いの訪問看護師と話す機会があり、必ず患者や家族と話せる時間があると知り、訪問看護師になることを決意しました。

訪問看護を始め、患者や家族とのコミュニケーションをとると、家庭ならではの悩みを相談されるようになりました。家族でも病院と同じように患者の体を拭けるよう電子レンジで蒸したタオルを作ったり、家族が扱いやすいよう医療的ケアに使う管を短くしたり、話を聞きながら最善の方法を見つけられています。

「死は、人生の集大成なのかもしれない」と話す田中さん。迷うことがあっても、相手の思いを大切に、幸せに生きられる方法を模索する日々です。今日も田中さんは、一人一人と向き合うために、患者さんの元へと向かっています。

「死は、人生の集大成なのかもしれない」と話す田中さん。迷うことがあっても、相手の思いを大切に、幸せに生きられる方法を模索する日々です。今日も田中さんは、一人一人と向き合うために、患者さんの元へと向かっています。



体調を調べながらも、家にあるおもちゃや会話などで、相手を知る

助産師
曲淵 貴子さん
(58・及川)

「赤ちゃんかわいいですね」「お産はどうでしたか」。産婦さんに笑顔を向けるのは、助産師の曲淵さん。市内の産婦人科で分娩介助や赤ちゃんの世話、出産後相談などに従事しています。

曲淵さんが助産師を目指そうと思ったのは、看護学校の実習で分娩に立ち会った時。「こんなにたくさんの笑顔に触られる医療現場は他にない」と、



産後の不安や悩みを丁寧にサポート

命の誕生は奇跡

新たな命が誕生するのは、数億分の1の確率といわれています。曲淵さんは「妊娠初期に小さな心臓が動いているのを見た時が、まずはひと安心する瞬間。命の誕生は決して当たり前ではなく、奇跡みたいなこと」とほほ笑みます。命懸けのお産を終えて赤ちゃんを抱いた時の母親のほっとした顔や、緊張した面持ちで待っていた父親の表情がばあっと変わる瞬間を見るたび、無事に生まれて良かったと胸をなでおろしています。

「病院が開くのは出産でひと段落だけれど、出産はゴールではなくスタート」と話す曲淵さん。妊娠時から見ているから

進む道を決めました。

多くの出産に立ち会ってきた曲淵さんは最近、子育て世帯の孤立化が気がかりだと言います。個人の考えを尊重する風潮ができた一方、考え方の違いのためにコミュニケーションが高度化したと感じています。「価値観が多様化して、同じ考えの人を探るのが難しいのかもしれない。コロナ禍で付き合いを遠慮した結果、孤立してしまう場合もある」。関わった親子が虐待で問題になったこともあり「あの時、もっとできることがあったんじゃないかと考えると...」。35年の経験があっても、葛藤や迷いがなくなることはありません。

「本来、子どもはみんなで育てた方が楽しい。しんどい時は『助けて』って言っていいたいんだよと伝えたい」

日々、命の誕生に立ち会う曲淵さん。生まれる前も、生まれた後も、誰もが一人にならず生きていけることを願っています。

私といのち

自分、家族、身近な人。命への思いや考えたことを聞きました。

子どもが成長する喜び

コロナ禍の出産は立ち会いができず、心細かったです。ミルクをあげたりおむつを替えたり赤ちゃんの世話をしていると、私が守らないと生きていけない命なんだと実感します。ささいなことでも心配になりますが、成長を見るときとおしく、初めて声を出して笑った瞬間は忘れられません。大変なことも多いですが、元気にすくすく育ってほしいです。

昨年出産を経験
山本 千夏さん
(28・愛甲)

もどかしさ 忘れたくない

働いている病棟で、2020年からコロナ患者を受け入れています。看護は人に触れる仕事ですが、感染対策でそれがかなわず、もどかしいです。1人で隔離されていると認知症が進んだり、本来できることができなくなったりする場合があります、生命力と人の触れ合いは切り離せないのだと感じます。

コロナ患者さんは面会ができず、亡くなくても体に触れて見送ることができません。本当にこれで良かったのかと日々葛藤しています。遺族の方に「最期、顔だけでも見られてうれしかった。ありがとう」と言われた時、救われた気がしましたが、「本当はもっとできることがあったのに」という気持ちを、看護師として忘れてはいけないような気がしています。

市立病院勤務
牧野 真秀 看護師

命を助けられて良かった

2年前、高校からの帰宅途中で人が橋から落ちる現場に居合わせました。とっさに救急車を呼び、救急隊員と電話をつないだまま、川から引き揚げたけがの応急処置をしました。命が危うい状況になった時、周りの人の対応が大切だと痛感した出来事でした。無我夢中だったこともあり、人を救ったという実感はあまりなかったのですが、後日、消防署から無事だったと聞いた時は本当に安心しました。命が助かって本当に良かったです。

一人一人に向き合うため、助産師間で情報交換

みんな育てた方が楽しい

多くの出産に立ち会ってきた曲淵さんは最近、子育て世帯の孤立化が気がかりだと言います。個人の考えを尊重する風潮ができた一方、考え方の違いのためにコミュニケーションが高度化したと感じています。「価値観が多様化して、同じ考えの人を探るのが難しいのかもしれない。コロナ禍で付き合いを遠慮した結果、孤立してしまう場合もある」。関わった親子が虐待で問題になったこともあり「あの時、もっとできることがあったんじゃないかと考えると...」。35年の経験があっても、葛藤や迷いがなくなることはありません。

「本来、子どもはみんなで育てた方が楽しい。しんどい時は『助けて』って言っていいたいんだよと伝えたい」

日々、命の誕生に立ち会う曲淵さん。生まれる前も、生まれた後も、誰もが一人にならず生きていけることを願っています。

悩み相談や交流の場
子育て支援センター「もみじの手」

子育て支援センターは、子育て中や、子育てを始める家庭の支援施設です。保護者同士が気軽に交流できる子育てサロン室などがあります。

詳しくはこちら

子育て支援センター ☎225-2922

大人の見守りで犯罪を防ぐ

下校時の小学生を狙った事件をきっかけに、子どもたちが安全に通学できるよう、2007年に地域で見守りを始めました。

今は共働き世帯が増え、保護者の目が行き届かない時間帯があります。犯罪が起こった時に追いかけて、捕まえたりするのは難しいですが、大人が子どもたちを見守ることで少しでも命の危険を減らせるよう、活動を続けていきたいです。

戸室小田急住宅自治会
「愛の目運動」
尾崎 俊朗さん
(86・戸室)

人を社会につなぐ

ホスピスで緩和ケアのカウンセラーをしていた時、ある患者さんから「歌が好き」という話を聞きました。私にしか伝えていないようだったので、提案してみんなの前で披露してもらおうと、彼は朗々と独唱し、聴いていた全員が驚きと感動に包まれました。数日後に旅立たれましたが、生き続ける勇氣と希望を私たちに残してくれたと感じ、人を他者や社会につなぐことも、カウンセラーの大事な仕事だと学びました。

苦しい事や嫌な事を話すと感情がリセットされるので、心のために大切です。ただ、つらい思い出は話しづらく、愛情を持って聴く人がいないと話せないこともあります。お互いに何げない悩みをおしゃべりし合って、心を大切にし合える世の中になればいいと思います。

人命救助を経験
福本 航大さん
(19・妻田南)

いのちのサポート相談

【日時】4月 10日 ①13時～②14時～③15時～ (各回50分)
●27日 ①9時～②10時～③11時～ (各回50分)

【場所】保健福祉センター

【内容】臨床心理士による、心の健康や人間関係の悩み相談など

【対象】市内在住の方各回1人 【費用】無料

☎4月 7日 ●26日までに健康づくり課 ☎225-2201へ。先着順。

臨床心理士
土屋 明美さん
(71・元町)

応急手当普通救命講習会

【日時】4月20日 9～12時

【場所】消防本部

【内容】応急手当の重要性、心肺蘇生法、自動体外式除細動器(AED)の取り扱いなど

【対象】市内在住在勤在学の中・高生以上15人 【費用】無料

☎4月3～10日に救急救命課 ☎223-9365へ。抽選。 ☎

特集 人と生きる

いのちを考える



家族や愛犬と遊んでいると自然と笑顔になる

作者のことは

いのちの大切さ 考えた出来事

はなが死んだのは昨年(2022)の2月です。書きたいことがたくさんあって、初めは原稿用紙7枚になったから、一生懸命削りました。「悲しいって言葉を使わずに書いてみて」とママに言われて、自分の気持ちを考えながら書くのが難しかったです。

友達にはなの話を聞いてもらって、みんなのペットの話を聞いて、自分だけじゃないんだって思いました。はながいなくなってから、犬の飼い方の本を読んだり、教室で飼っているバツタの世話をしたりするのが好きになりました。今は、新しく迎えた「きよび」の世話をたくさんしています。きよびのトイレをきれいにし、散歩に行きます。おやつもあげます。周りの人に優しくして、自分を大事にして、きよびと幸せに生きていきたいです。



小学校1〜3年生の部 特選

はなが教えてくれたこと

玉川小学校3年 畑中瑞貴

二月十九日の朝、とつぜん電話がなりました。私はテレビを見ていたけれど、ドキッとてふりむきました。それは、電話に出たお母さんがなきたからです。よこはまのびょういんに入り込んでいたか、犬のはなが死んでしまったという、先生からの電話でした。私たちは、あわててびょういんへ向かいました。車の中では、これから何がおきるのか、とてもふあんでした。びょういんにつくと、ソファのあるへやに行きました。長い間まわっていると、白いぬのにつまはながつられてくれました。青いお花のワッペンでかざられていて、はながんはつたし、うんちもついていました。私は大きい声でなきました。お母さんも、「はな。ごめんね。」

と、何でも言いながら泣いていました。お父さんは、何も言わずにはなをだいていました。はなは、ねている時のような顔でした。体はつめたかったです。それは、たましいがぬけているからだと思いました。はなは本当に死んでしまったんだと感じました。

(中略)はなが死んでからお母さんは、とつぜん泣いてしまうことがありました。お父さんも、遊び相手がいなくてさびしがりやになりました。妹は小さくてまだ分からないようでしたが、はなの絵をたくさんかいていました。

はなを火葬する前の日、私は五時間目に頭がいたくなってきました。家に帰れば治ると思ったので、いつも通り帰りました。でも、家につくとお母さんが泣いていて、何でもトイレではきました。し



新しく迎えた保護犬の「きよび」と畑中さん

ぜんになみだが出てきて、何時間も大声でなきました。その後、いつの間にかねてしまいました。それから私は、テレビ

に犬が出てくるとすぐけすようになりました。さん歩で犬とすれちがうこともできませんでした。元気な犬をかつている人がうらやましくてたまらなかつたです。

いくらはなに戻ってきてほしいと思っても、はなは帰ってきませんでした。世界中どこをさがしても、はなはもういません。その時、うちだけずうっと冬みたいでした。家の前には大きいきくらの木があります。はなとお花見するのを楽しみにしていました。さくらがさくころにはながいなくなって思っています。

学校の帰りに、友だちのお母さんに会いました。犬のさん歩をしていました。そして、ミニチュアシナウザーのレイくんをなでさせてくれて、はなの話もいっぱい聞いてくれました。私は心がすっきりしました。それから、ねこをかっている友だちにはなの話を聞いてもらうこともありました。ペットのハムスターを亡くした友だちとお話して、「気持ち分かるなあ。」と、思うこともありました。そして気分が軽くなったり、少しずつ前向きになつたりしました。

新しい犬をむかえようと決めたのは、さくらのさくころです。一ぴきでもくるしんでいる犬を助けたいと思い、ほこ犬をかうことにしました。毛色ははなに似ていてこげ茶と白の毛がかわいいです。名前はきよびです。

私ははなを亡くして、いのちの大切さをまなびました。まわりの人やきよびにやさしくすること、自分を大事にすることが、いのちを大事にするということなんだと思います。

今日の朝、大雨の後にじかかかりました。「私が死んじゃったから悲しくないで。」という、はなからのプレゼントだったのかもしれません。たくさんのお話を教えてくれたはなに、ありがとうと言いたいです。

大好きなペットと別れた時、戦争を知った時、初めて命について考えた小学生がいます。小・中学生の詩や作文、短歌などを表彰する和田傳文学賞の昨年度受賞作品から、いのちにまつわる作文を紹介いたします。

市HPに全文を掲載

広報あつぎ 検索

和田傳文学賞

名誉市民であり作家の故・和田傳氏の遺志による寄付金で創設した基金を基に1986年から開催。昨年度は142作品の応募があった。教育指導課 ☎225-2675

小学校4〜6年生の部 入選

戦争を知らない私

鷹尾小学校6年 小林愛佳

(前略)八月に入ってからすぐのある日、テレビを見ていたら戦争の特集番組をやっていた。日本は世界で唯一の戦争被ばく国であることや、今年で戦後七十七年になる事などを話していた。

「日本は、唯一の被ばく国なのだから、私達は世界中の人々に、核兵器の恐ろしさを伝えていかなくてはなりません。」とある人が言っていた。

「あれ？私、日本人なのに何も知らない。」と私は少しはさかしくなった。

戦争の話は、国語の授業でいくつか読んでいた。私が一番印象に残っている話は、「ちいちゃんのかげおくり」だ。

このお話は、小さな女の子が見た戦争が書かれていて、空しゅうにより家族がバラバラになり、小さな女の子がたった一人で空腹にたえ生さようとした悲しいお話だった。

「もしこの時代に私がいたら同じように生きていたのだろうか？」と恐怖を感じ、あたりまえに普通の生活が出来ているという事は、幸せな事なのだと学び戦争の恐ろしさを知った。だが私が知っているのは、そこまでだ。

「日本は唯一の被ばく国」という意味がわからなかった。そこで私は第二次世界大戦について調べてみることにした。(中略)原子爆弾について私は、沢山の資料や被爆者の証言を見た。中には目をおおいたくなるような写真もあった。七十七年もの時がたつているのに今でもなお人々を苦しめていると言う事がわかった。戦争とは、人々の体を傷つけるだけでなく心にまでも傷をおわせるのだ。

現在も世界では様々な理由により戦争がおこっている。今年二月にはロシアによるウクライナへの軍事しんこうが開始され、大きく報道された。自分の身を守るため、家族を守るため武器を手にとらざるをえない人々が大勢いる。武器を持たない選択は、ないのだろうか？と私は考えた。戦争をなくすためには国と国との問題にせず、世界の問題として話し合う事ができればなにか解決策が出てくるのではないかと私は思う。



3年生の国語で学んだ「ちいちゃんのかげおくり」

戦時中を生きぬいてくれた人達がいるから私達は、平和に生きていけるという事を決して忘れてはいけません。そして、私達は戦争の恐ろしさを伝え続けていく責任があるのだ。世界中で戦争がなくなる日を願ひながら……

作者のことは

戦争を知ると日常の大切さが分かる

戦争について調べたら、毎日ご飯を食べたり学校に行ったりする何気ない日常が、当たり前じゃないんだと思うようになりました。友達や家族とくだらない話をして笑い合えているのは、幸せなことだと気がきました。それは戦争について知ったから分かったことです。

怖いことを忘れたい気持ちも分かるけど、伝え続けなきゃいけないと思います。戦争のない世界にするために私にできることは伝えることだから、みんなにも知ってほしくて作文にしました。



「学校で友達と話している時が楽しい」と小林さん



「そのままのあなたでいいんだよ」と言ってくれたこと。悩み事を話した時、自分のことのように心配して涙してくれる人がいた。

50代女性

高齢者ですが、特別支援教育介助員をしています。日々、子どもたちから声をかけてもらい「髪切ったの」「洋服新しいね」などと気にかけてくれるとうれしいです。子どもたちと共に最新教育に触れながら、一緒に成長できるうれしい喜びを見い出せる仕事に感謝しています。

70代女性

相手を大切に思った時に、そんなことを思う自分が幸せに感じた。

60代女性

仕事で精神的に落ち込んでいたとき、母や父、旦那にたくさん話を聞いてもらい味方になってくれて救われた。失業などショックな出来事があったても支えてくれた家族に感謝しかない。

30代女性

心が通じ合った

私は右足が悪いのですが、重い物を持つ時に、代わりに持ってもらいました。

50代

親が自分のためにここまで成長させてくれたので、嫌なこと含めて大切にされていると思う。

10代女性

高校生の時、阪神淡路大震災で被災した。家は一部損壊でまじだったが、震災直後に店から食料品が無くなり食べる物に困った。そんな時に実家が洋食屋をやっていた知り合いから食料を分けてもらったり、全国から集まったカンパの食料品に助けられたりした。水とガスが3カ月間使えず、学校へ持っていく弁当が作れないことと、風呂に入れないことに困った。その困り事を水とガスが来ていた友人2人が助けてくれた。1人は帰宅時に家に寄らせてもらい風呂と夕食を頂き、もう1人はお母さんに弁当を自分の分まで作ってきてもらった。本当に困った時に頂いたご恩は、四半世紀過ぎても忘れられない。

40代男性

誕生日を祝ってくれた

家族には大切にしてもらっているのだから、たくさんありすぎる。大きな事ではなく、小さな事。事象ではなく心で感じている気がする。

40代女性

誰かの思いに触れたささいな出来事や、命のことを考えた経験を糧に、今を生きている。アンケートに記された皆さんの声を紹介します。

アンケート ▲自分を大切にしてもらいうれしかったこと ▼生きていてよかったと思う瞬間

平和な日本で変わらない日常を送っている時です。若い頃はいろいろチャレンジしてみたい事がありましたが、年を取り、優しい友達と話をしたり笑い合ったり知らなかった情報に感動したりする時、とても幸せを感じます。

70代女性

私が生きていてよかったと思う瞬間はありません。世の中にいろんな人がいるのに、どうして私みたいな人が生きてしまっているんだろうと今も思っています。でも命があり、体が元気なうちは周りの人の役に立てるように、誰かがこの人がいてよかったと思ってくれするように頑張りたいと思います。そしてその時、私自身が生きていてよかったと思えるようになることを願って生きています。

20代女性

生まれて初めて恋愛をして、その女性が理想の人であって結婚することができた。長男が生まれ2年後には長女が生まれ、妻や子どもと家族として生活することができた。

60代男性

おいしい物を食べた

愛情を感じた

延命治療中ですが、自宅で生活できてサッカーのワールドカップや好きな相撲を見られた時、生きていてよかったと思います。野球のWBCも楽しみです。生命は自分のも他人のも大切にしたいです。

60代女性

治らないと思った病気が治りました。先生から「今までできなかった事をたくさんやってください」と言われた時、涙が止まりませんでした。今では好きな事ができ、家族も「よかったね」と言ってくれます。医療の発達ですごくいいです。生きていてよかったです。

40代女性

親しかった友人との何十年ぶりの再会。

70代

子どもや孫が生まれた

小学生の頃からバスケットボールをしています。大学4年生の時に大きな事故をして、もう今のレベルでプレーすることは不可能だとドクターに告げられました。そこから必死にリハビリをして、1年半後にはプロのコートに立つことができました。当たり前が当たり前でなくなる瞬間は、いつどんな時に誰にでも起こり得ることです。この経験があるからこそ、自分の好きな事に努力できることに今は幸せを感じています。日々生きていることへの感謝、支えてくださっている全ての方々への感謝の思いを忘れません。生きていてよかったと思う瞬間は、今現在です。

20代男性

生きていてよかったと考えたことは無いけれど、妻や娘が楽しそうだったり、趣味が楽しめたり、空がきれいだったりすると幸せだなあと感じるので、それらを生きていてよかったと言い換えてもいいのかもしれない。

30代男性

特集 人と生きる

ぬくもりを感じて



図書の展示

今回の特集に関連した本を集めた図書展を開催します。

《日時》4月1～30日
9～19時

《場所》中央図書館

《内容》戦争の体験談やみとりなど、司書による選書の展示

☎中央図書館 ☎223-0033

デジタル写真展 作品募集

命の尊さや生きる喜びを実感した瞬間の写真を募集します。写真は、駅前のデジタルサイネージや市HPに掲載します。

《募集期間》4月16日まで

《掲載期間》4月下旬～

☑Eメールで写真データを広報課 ☒0200@city.atsugi.kanagawa.jpへ送付またはインスタグラムのダイレクトメッセージで市公式アカウント「atsugi_city」へ写真データを送付。

☎広報課 ☎225-2040



新しい副市長決まる 次の厚木へ 新体制



幹部職員らの前で決意を語る



霜島宏美前副市長の退任に伴い、元市職員の石塚修氏(65)が副市長に選任されました。任期は3月6日から4年間で、副市長は現職の上前行男副市長と2人態勢になります。石塚氏は、1980年に入庁し、中心市街地整備担当部長や産業振興部長などを歴任。2018年から厚木歯科医師会の事務局長を務めていました。3月6日に開催された選任発令式で石塚氏は「少子高齢化や感染症など多くの課題があり、大きな責任を感じている。亡くなった佐藤明元副市長が志した思いもくみ、スピード感を持って果敢に挑戦していきたい」と話していました。

霜島宏美前副市長の退任に伴い、元市職員の石塚修氏(65)が副市長に選任されました。任期は3月6日から4年間で、副市長は現職の上前行男副市長と2人態勢になります。石塚氏は、1980年に入庁し、中心市街地整備担当部長や産業振興部長などを歴任。2018年から厚木歯科医師会の事務局長を務めていました。3月6日に開催された選任発令式で石塚氏は「少子高齢化や感染症など多くの課題があり、大きな責任を感じている。亡くなった佐藤明元副市長が志した思いもくみ、スピード感を持って果敢に挑戦していきたい」と話していました。



霜島宏美前副市長の退任に伴い、元市職員の石塚修氏(65)が副市長に選任されました。任期は3月6日から4年間で、副市長は現職の上前行男副市長と2人態勢になります。石塚氏は、1980年に入庁し、中心市街地整備担当部長や産業振興部長などを歴任。2018年から厚木歯科医師会の事務局長を務めていました。3月6日に開催された選任発令式で石塚氏は「少子高齢化や感染症など多くの課題があり、大きな責任を感じている。亡くなった佐藤明元副市長が志した思いもくみ、スピード感を持って果敢に挑戦していきたい」と話していました。

小学生約400人が健脚競う

ちびっこマラソン・駅伝競走大会を3年ぶりに開催

小学生対象の「ちびっこマラソン・駅伝競走大会」が、荻野運動公園で開かれ、春の訪れを感じさせる陽気の中、約400人が健脚を競いました。大会は、子どもたちがスポーツに親しむきっかけをつくるために開催し、今回で11回目。2020・21年度は感染症の影響で中止となっていました。スタート時間になると、15歳の部、1歳の部、1歳の親子の部の順に、競技場から駆け出しました。4人でたすきをつなぐ駅伝の部には、19チームが参加。チームメイトや保護者らの声援を受けながら、懸命にゴールを目指す姿が見られました。2年生親子の部で優勝した山田幸一さん(8)は「最後、優勝できそうだったので、疲れていたらけれど頑張った」と胸を張りました。

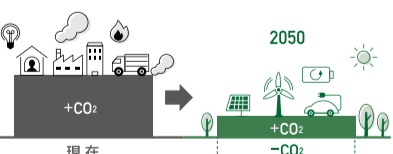


手をつなぎゴールを目指す親子の部の参加者

第1回 みんなで目指そう カーボンニュートラル

カーボンニュートラル(CN)とは、地球温暖化の原因である温室効果ガスの排出を減らし、植林や森林管理などによる吸収量を増やすことで、実質ゼロを目指す取り組みです。連載では、今日から挑戦できる取り組みを紹介します。

今月の挑戦 CNを学ぼう!



温室効果ガスの排出量から、植林や森林管理などによる吸収量を差し引き、合計が実質的にゼロになることを目指す。

温暖化を食い止めるには、現在の生活様式を見直す必要があります。市では、CNの必要性や一人一人ができる取り組み、補助金情報などを専用のホームページ「CNプラットフォーム」で紹介しています。まずはCNを学ぶことから始めてみましょう。

CNプラットフォームでは、家庭でできるCNの取り組みをはじめ、企業の取り組みや補助金の情報などを発信しています。☎環境政策課 ☎225-2749



「『厚木愛炸裂』を心の底に置き、新しい厚木の未来をつくりたい」多くの皆さんの出迎えを受け、2月24日に初登庁の日を迎えました。市役所玄関前では、市長として初めてのあいさつを経験。皆さんの期待に満たたまなざしを前に、背負った責任の重さを深く身に刻みました。選挙戦の中では、市民の皆さんから現状への物足りなさや閉塞感を伝えられることがありました。県央の雄都としての存在感に大きな危機感を感じ、

民朝市などで市民の皆さんの息遣いに触れられる機会がありました。郷土芸能である相模里神楽・垣澤社の記念公演では、受け継がれてきた伝統の中に新たな息吹を感じられるすてきな体験もできました。私がまず取り組みたい政策の一つに、「スポーツ、文化芸術、歴史の聖地づくり」があります。皆さんの生き生きとした活動を応援し、市内の至る所に厚木愛が響き合うまちづくりに挑戦まいります。



相模里神楽・垣澤社中の皆さんと

を抱いており、生まれ育ったふるさとを全国から憧れを抱かれる魅力的なまちにしたいとの思いが日増しに高まっています。就任早々から記者会見をはじめ、議会、あいさつ回りなどの公務がどっと押し寄せる中、公民館まつりや市

Zoom Up

カーボンニュートラル達成に向けて

ロードマップを策定

カーボンニュートラルは、地球温暖化の原因となる二酸化炭素(CO₂)の排出量と吸収量を均等に調整し、実質ゼロにすることです。市では2021年にゼロカーボンシティを表明。3月、達成に向けた道筋「カーボンニュートラルロードマップ」を策定しました。

私たちの生活と経済活動で発生するCO₂は、地球温暖化の原因となります。温暖化が進むと、深刻な異常気象などをもたらすと考えられています。温暖化に歯止めをかけるため、世界的にカーボンニュートラルの取り組みが進んでいます。市では、2050年の実現に向けた道筋を示すため、ロードマップを策定しました。

再エネ利用と省エネの目標を設定

市では昨年4月、ロードマップの策定に向けた方針を定め、環境関連団体

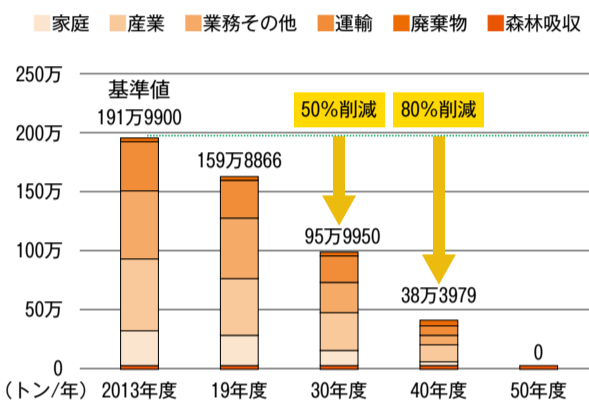
や企業、市民の皆さんから意見を聞いてきました。達成に向けて大切なのは、太陽光などの再生可能エネルギーの活用(再エネ)と、省エネルギー(省エネ)です。ロードマップでは、家庭・産業・業務その他・運輸・廃棄物の5部門に分けて道筋を設定。部門ごとに、いつまでに、どの程度CO₂排出量を減らせば達成できるか目標を示しています(下欄参照)。

「できることを積み上げる」が第一歩」と話します。カーボンニュートラルの達成には、行政・企業・市民などが一体となった取り組みが不可欠です。ロードマップには、家庭での効果的な省エネ方法や、インターネットで簡単にできる省CO₂ 2 診断・太陽光発電シミュレーションなども紹介しています。より良い環境を未来につなぐため、できることから始めてみませんか。

環境政策課 ☎225-2749



カーボンニュートラルに向けたCO₂削減目標



あつぎ気候市民会議の参加者を募集

あつぎ気候市民会議は、カーボンニュートラル実現に向けて市民ができることを議論し、アクションプラン(行動計画)を策定するための取り組みです。

【4月上旬に案内状を送付】幅広い年代や考えを持つ方に参加してもらうため、無作為抽出の3000人に案内状を送ります。4月14日までに参加の可否・理由などの回答をお願いします。

環境政策課 ☎225-2749

新型コロナウイルス ワクチン接種情報



情報は3月14日時点

重症化リスクの高い方や、医療従事者などの接種を実施します。

【対象】初回接種を終え、最終接種日から3カ月経過した①65歳以上②基礎疾患のある5~64歳③医療機関、高齢者・障害者施設の従事者—のいずれかに該当する方

【接種予定時期】5~8月

【接種券】4月下旬に送付予定

①全員に送付 ②③申請が必要 申請はこちら

※申請不要な場合 2022年に基礎疾患・医療従事者の申請をして4回目接種をした方には4月下旬に接種券を送付(未接種の場合は手元にある接種券を使用可)。

③3~5回目の接種済証を用意し、4月6日までに市HPまたはコールセンター☎0570-054-666へ。

◆その他の方の接種予定

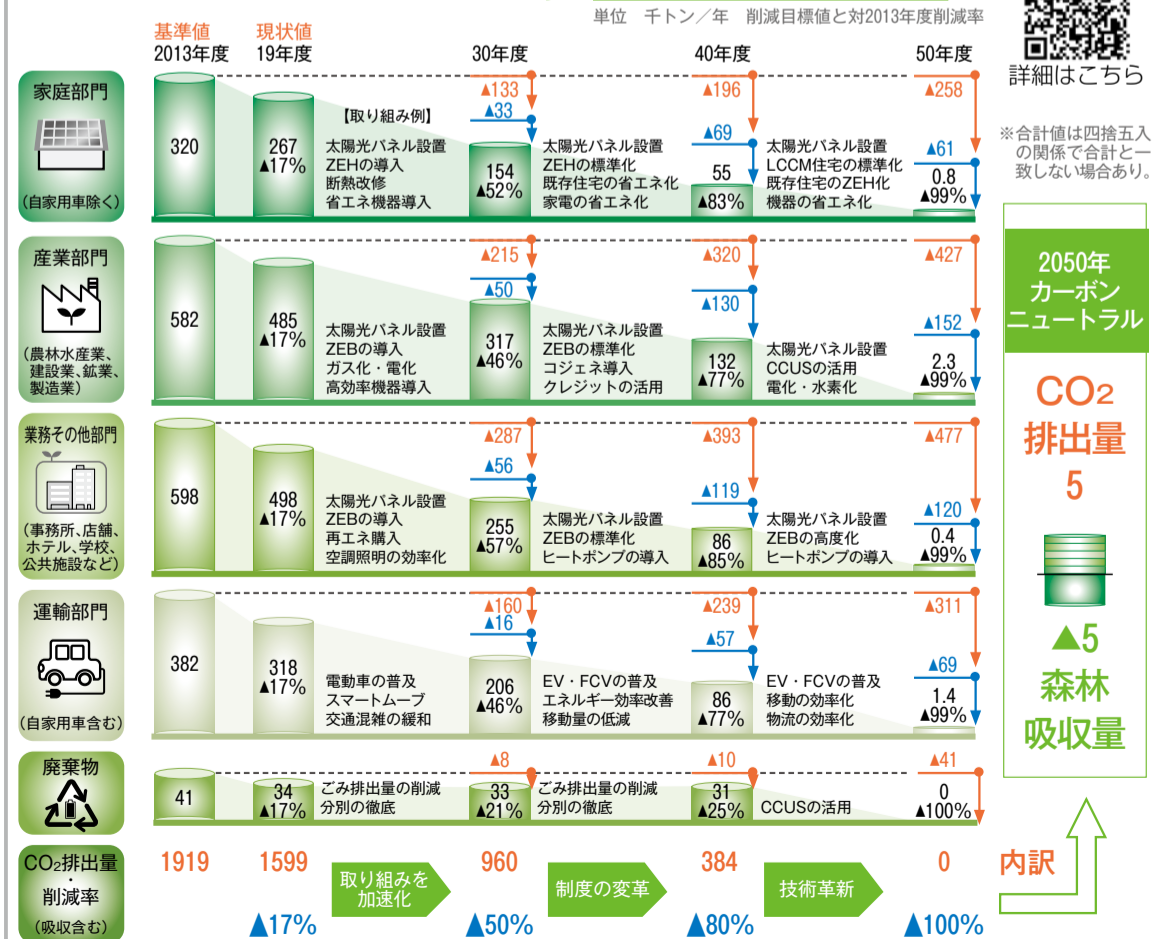
国の方針が決定次第、広報あつぎや市HPでお知らせします。

対象 1・2回目の接種を終えた5歳以上

時期 9~12月に1回

☎ワクチン接種コールセンター☎0570-054-666

ロードマップの全体像



2050年カーボンニュートラル

CO₂排出量 5

▲5 森林吸収量

内訳

タウンガイド

4月

| | | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|----|
| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
| | | | | | | 1 |
| 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 |
| 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 |
| 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 |
| 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 |
| 30 | | | | | | |

☎=申し込み ☎=問い合わせ ☎=電話番号
 ☎=ファクス番号 ☎=Eメール HP=ホームページ
 ☎=講座予約システム(インターネットで申し込み可)
 市役所への郵便物は「〒243-8511〇〇課」で届きます。

あつぎのしゃしん。



「春到来」

#3月4日撮影
 #河津桜
 #山中陣屋跡史跡公園
 #niceatsugi
 市公式Instagramで公開中



5月

| | | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|----|
| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 |
| 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 |
| 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 |
| 28 | 29 | 30 | 31 | | | |

感染予防の徹底を

感染の不安がある方、診療ができる医療機関の案内などは県の専用ダイヤル☎0570-056-774(24時間対応)へ。

☎健康長寿推進課☎225-2174

危険物取扱者試験の受験準備講習会

5月13日、9時30分～17時。消防本部。試験に向けた講習。9600円。☎消防本部や各消防署・分署にある申込書を、4月10日～5月12日に直接、予防課☎223-9369へ。

観光振興推進委員を募集

《対象》①市内在住で応募日現在18歳以上②平日昼間の会議(年3回程度)に出席できる③他の審議会の委員でない④市の議員・職員でない⑤の全てを満たす方2人《任期》6月～(2年間)《報酬》日額7800円(交通費含む)。☎観光振興課や市HPにある申込書と応募

動機(400字程度)を、直接または郵送、ファクス、Eメールで4月28日(必着)までに〒243-8511観光振興課☎225-2820・☎223-0174・☎3850@city.atsugi.kanagawa.jpへ。

久保奨学金(学校教育活動応援奨学金)奨学生を募集

中学校の部活動の費用を支援する奨学金の希望者を募集します。《対象》①市内に居住している中学生②部活動への意欲がある③経済的な理由で部活動への参加が困難④の全てを満たす方30人。☎申請書を4月20日までに担任の先生へ。詳細は、市立各中学校から配布されるチラシに掲載。市立中学校以外の方は教育総務課☎225-2600へ。選考あり。

文化芸術振興委員を募集

条例の運用状況の点検や文化芸術の振興に意見する委員を募集します。《対象》①市内在住に勤在学で応募日現在18歳以上②平日昼間の

防災行政無線情報や緊急情報 防災ラジオの有償配布

屋内でも防災行政無線の情報を聴けるラジオを有償配布します。

《対象》市内在住の方、事業所、団体
 《費用》1台4000円《配布予定日》10月

☎直接、電話またはファクス、Eメールにて住所、氏名、電話番号、購入台数、受け取り希望場所(危機管理課または希望する公民館)を書き、4月28日までに危機管理課☎223-0173・☎0900@city.atsugi.kanagawa.jpへ。

☎危機管理課☎225-2190



- ポイント
- ①最新の放送を繰り返し再生可能
 - ②AM・FM利用可。緊急時は市の情報を優先
 - ③市内どこでも受信可能

本厚木駅前東口地下道 活性化提案事業

活気あふれる空間になるよう、市民の皆さんがイベントを実施します。

☎企画政策課☎225-2450



| 事業名 | 内容 | 実施日 |
|---------------------|----------------------|------------------------|
| 本厚木地下道骨董市 | 骨董品の販売など | 8・1月を除く毎月3日(2024年3月まで) |
| リサイクルキャンドルを知ってもらおう! | ろうそくの再利用方法の展示と販売 | 8月を除く毎月3日(12月まで) |
| 出張まりぞうランド | ラジコンなどに触れる | 11月を除く毎月第2日曜(3月まで) |
| 街角アカペラコンサート | アカペラコーラスを披露する | 10月14日 |
| 地カフェ 自然の共生する地下空間 | 四季の樹木を配置し休憩できる空間をつくる | 4月29日、10月28日 |

会議(年3回程度)に出席できる③他の審議会などの委員でない④市の議員・職員でない⑤の全てを満たす方3人《任期》6月17日～(2年間)《報酬》日額7800円(交通費含む)。☎文化生涯学習課や公民館、市HPにある申込書と小論文(400文字程度)を、直接または郵送、ファクス、Eメールで5月1日(必着)までに〒243-8511文化生涯学習課☎225-2508・☎225-3130・☎0350@city.atsugi.kanagawa.jpへ。

災害リスクの高いエリアからの移転を補助

土砂災害特別警戒区域や家屋倒壊等氾濫想定区域などから移転する方に、除却・移転費などの一部を補助します。

《対象》市で定める危険区域に住み、対象の住宅を除却し市内の安全なエリアへ移転する方《補助上限額》1戸当たり①除却など=308万円②建物助成(借入金利子への助成)=731万8千円③移転など=97万5千円。☎事前相談後に申

請書を都市計画課☎225-2400へ。詳細は市HPに掲載。

本入れバッグの配布

小学校に入学した児童に、小学校を通じて本入れバッグを配布しています。私立小学校の場合は、中央図書館で配布。☎中央図書館☎223-0033。



4月2日は「世界自閉症啓発デー」 2～8日は「発達障害啓発週間」

誰もが暮らしやすい共生社会を願い、4月2日にアミューあつぎを啓発デーのイメージカラー「ブルー」にライトアップします。☎障がい福祉課☎225-2221。

ふれあいプラザのオープンが延期

ふれあいプラザの工事期間の延長のため、開業予定日を12月1日に変更します。☎環境事業課☎225-2791。

広報あつぎの発行を LINEでお知らせ

《配信日》毎月1・15日
 《受信方法》①「LINE」アプリをインストール②LINEのホーム画面で「@atsugi_city」を検索または二次元コードから市公式アカウントを友だちに追加③受信設定の「お知らせ受信設定」で市からのお知らせをオンに



友だち追加

☎広報課☎225-2040

インターネットモニターからの意見を紹介

Hot E Mail

インターネットモニター募集
 厚木市 インターネットモニター 検索

☎広報課☎225-2043

3月1日号「広報あつぎ」を読んで

◆子どもが不動産の写真を見て行きたいと言った。私もいい所だと思う/40代女性 ◆愛情と誇りを持てるまちづくりに全力で取り組んでほしい/70代男性 ◆自宅でも災害への備えをしなければと思った/40代男性 ◆公民館は近くにあっても行きにくかったが、これからは気軽に寄ってみたい/40代女性 ◆4年ぶりに飯山桜まつりが開催されるのを知り、うれしくなった。今年は桜を見に行きたいと思う/50代女性

編集後記

昨年の夏、初めての出産を経験しました。退院する時、体はボロボロで、赤ちゃんは未知の生き物で、自分がこの命を守らなきゃいけないことがとても不安でした。それから7カ月経ち、家族や両親はもちろん、職場の人や声をかけてくれる知らない人まで、みんなが子どもを気にかけてくれて、今では守るのは私一人ではないんだと思っています。子どもも私も人と一緒に生きていくんだと改めて感じました/前場

審査結果

第50回

広報写真コンクール

「みんなに伝えたい 住みたいまち厚木」をテーマに作品を募集し、審査の結果、入選作品が決まりました。

☎広報課 ☎225-2040

■ 一般部門

応募数 110点



市長賞 「待ち望んだ鮎まつり」 町野正樹



神奈川新聞社賞 「雪遊び」 高梨雅史



観光協会賞

「大道芸クライマックス」 山本雄二

入選 関口通規、西山昌敏、内野秀明、大坪政文、飯田ひろか、戸塚正夫、伊藤和馬
審査員奨励賞 田中亮、杉原陽菜

● インスタグラム部門

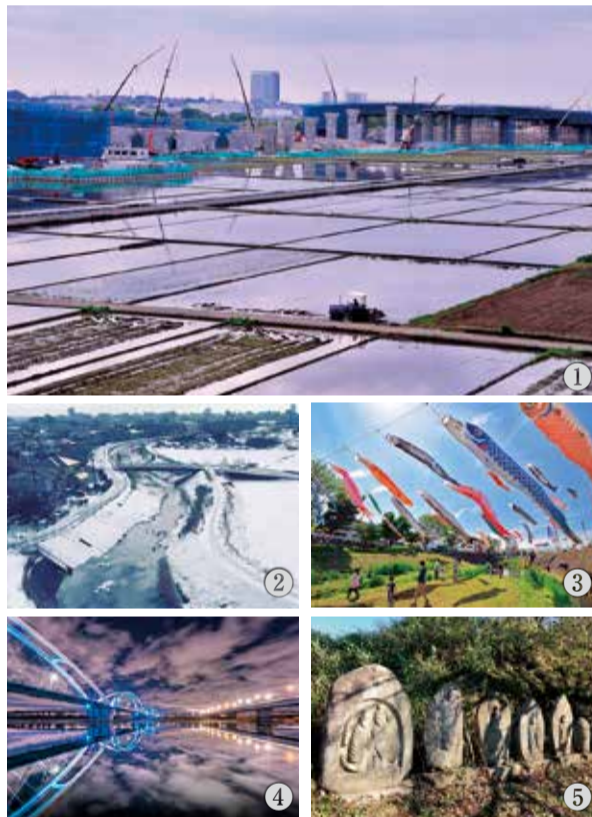
応募数 442点



市長賞 井上友佳子
アカウント名「apphoto2012」

● 50周年記念部門

応募数 271点



全入選作品は市HPに掲載。一般部門の入選作品は、4月1日から本厚木駅前東口地下道に展示します。



市HPはこちら

入選 (アカウント名)

《インスタグラム部門》

「_____shine_x」「ko_____901」

「ai6kou11」「syojiku」

《50周年記念部門》

※インスタグラムで募集

「①ssrunrun」

「②minominto」「③ukiuki_walker」

「④ikeponjpn」「⑤toshiharu_kon」

(氏名・アカウント名は敬称略、順不同)

第51回広報写真コンクールは、7月頃に募集の案内を掲載する予定です。

自然歳時記

● ミソサザイ ●
ミソサザイ科

ミソサザイは、寒い時期「チャツ、チャツチャ」という地鳴きで鳴くが暖かな春になると大きな声でさえずる。体長11㎝ほどとても小さな鳥の代表／七沢、上流の石切り場付近で見つけた。 写真・文 / 吉田文雄



「ピーチーピルピルルーッ」と澄み切ったさえずりが聞こえてくる。ミソサザイは、日本の鳥の中ではクイタダキと同じくらい小さいが、鳴き声はとても大きい。

崖の隙間にあるミソサザイの使用後の巣を見たことがあるが、25㎝ほどの球形で、新鮮なコケ類で

覆われていた。あの小さな鳥がこんなに大量のコケ類を集め清潔で温かく、しかも安全で快適な巣を作ったことに驚いた。

最近、鳥が少なくなったという声をよく聞くようになった。人間も鳥もあらゆる生き物が共存できる地球であってほしい。

厚木市の人口
(3月1日現在)

🏠 世帯数

10万3551世帯 (前月比37世帯減)

👤 人口

22万3760人 (前月比189人減) 男11万5148人・女10万8612人